

## 2. 石油

貴井 孟

**石油製品販売：**  
震災後に大きく落ち込むも通年では微増

10年度第4四半期(1月～3月)は、東日本大震災直後に関東・東北地方の6ヶ所の製油所(精製能力合計139.7万BD)が停止した上、配送網の寸断により石油製品の配送が困難となったため、石油製品販売量は5,352万kℓと前期比-119万kℓ(同-2.2%)の減少となりました。ただし通年でみれば、猛暑等の理由で第2四半期を中心に石油製品需要が高まったことから、石油製品販売量は20,006万kℓと同+70万kℓ(同+0.4%)の微増ながら11年振りに前年を上回りました。

**設備稼働率：**  
元売各社の精製能力削減により稼働率は改善

需給バランスの改善に向けて石油元売各社が精製能力を削減してきたことから、10年度末の原油処理能力は442万BD(前年同期比-37万BD、-7.7%)まで減少し、第4四半期の設備稼働率は84.5%(同+3.5%p)に上昇しました。東北大震災後一時的に石油精製能力が不足したものの、国内需要対比でみれば未だ精製能力は過剰であることから、元売各社は精製能力の削減を継続する方針です。

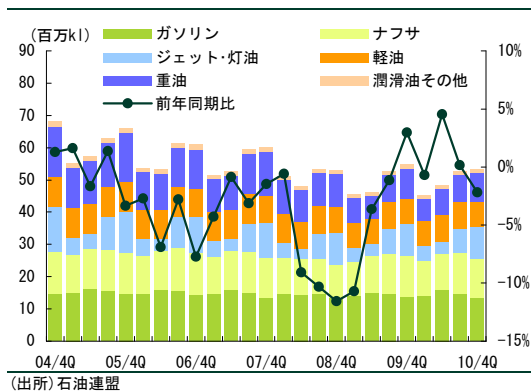
**マージン：**  
需給バランス改善によりマージン拡大

元売各社の精製能力削減により石油製品の需給バランスは改善し、マージンは増加しました。主力製品であるガソリンのマージンをみれば、10年度のマージン(精製・販売合計)は27円/ℓ(同+5円/ℓ)に拡大しました。尤も販売マージンは、卸売価格の上昇を小売価格へ十分に転嫁できず、12円(同+1円)/ℓと引続き低調に推移しています。

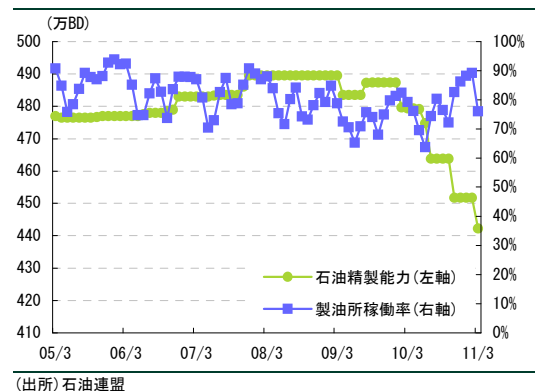
**石油元売大手業績：**  
10年度は増収増益を達成、11年度は増収減益を予想

大手元売5社の業績をみれば、10年度は油価および石油製品のマージン上昇を主因に、5社合算の通期売上高は前期比+10%の増収、在庫影響を除いた実質的な営業利益は黒字転換を果たしました。11年度通期見通しについては、油価は引続き上昇する一方で10年度並のマージン確保は困難との見方から、5社合計の売上高は同+10%の増収、実質的な営業利益は同-16%の減益を見込んでいます。

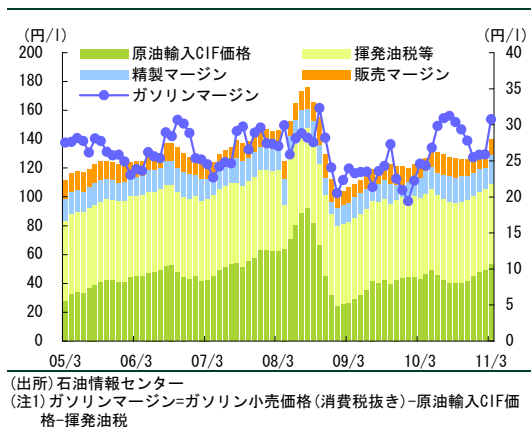
石油製品需要の推移



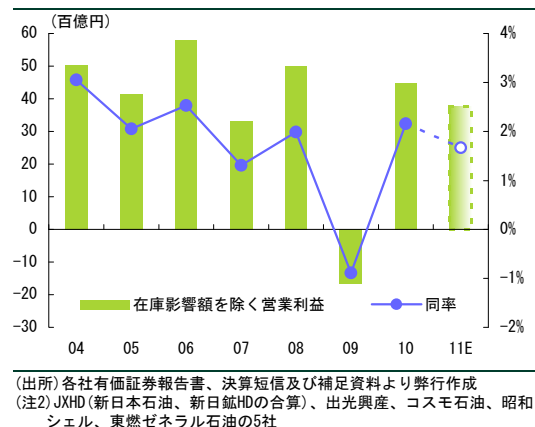
原油処理能力と稼働率の推移



ガソリンマージン推移(注1)



石油元売大手5社(注2)の合算連結業績推移



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。